

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷区宇納間170番地		
自己評価作成日	平成24年10月21日	評価結果市町村受理日	平成25年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=4572100644-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、住み慣れた地域で生活していると感じてもらえるよう、地域の事を会話の中で取り上げたり、方言を使うなどしている。また、地域に密着した施設であるように、地域の行事に参加したり、散歩などで地域の人との触れ合いを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の施設内の一角に建てられたホームは、併設している他の事業所とそれぞれの機能を生かし、連携を図りながら、常に利用者の立場に立った支援に努めている。運営者は、ホームの資質の向上のためには、外部からの意見や提案が重要との考えを持ち、職員も同意している。資格取得に向けても、積極的に支援する体制が確立されており、職員は向上心を持って働いている。運営者と職員の距離が近く、仕事が楽しいとの声も職員から聞かれた。理念は、ケアの基本として職員全員で共有し、一人ひとりの人格を尊重した支援が、あらゆる場面で実践されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを大切に」を理念に、職員全員で共有し、利用者のケアに努めている。	開設当初からの理念をケアの基本として、全職員が共有し、日常のケアの中で実践につなげている。今後、地域密着型サービスとしてのニーズに沿った理念を、全員で作っていく計画がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩や地域の行事に参加するなどして、地域の人と交流している。また、小中学生との交流も慰問などを通してある。地区からの回覧物もあり、地域の一員として、日常的に交流している。	地域の行事に参加する機会も多く、顔見知りの関係ができています。食材等も地域の商店を利用しており、配達時に利用者とは話をしているなど、交流の場面がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出かけたり、地域の人が施設へ来苑する機会を生かし、認知症の人への理解、支援方法を伝えられるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、苑での状況報告や意見交換を行い、サービス向上に活かせるよう努めている。会議後、委員が利用者とはふれあうこともあり、実際の現場を見ての意見等もある。	前回の評価報告やホームの活動、状況報告のほか、委員から地域の情報を聞いたり、意見交換を行っている。また、利用者の日常を知るため、会議の後にホームに立ち寄ることもあり、気づきを発信してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者には、運営推進会議にも出席してもらい、情報交換を行ったり、日頃から積極的に苑の実情を伝え、協力関係を築くようにしている。	日ごろから、情報交換は密に行っているため、担当者との協力関係は良好で、ホームの状況もよく理解してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員全員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。安全面を優先し、やむを得ない場合は、家族に相談し、了解を得ている。	身体拘束についての勉強会をしており、弊害については理解している。玄関は、日中は施錠しておらず、外に出る気配がある時には、見守りながら、本人の思いを妨げないよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃から、職員同士、互いの言動について十分注意し合っている。また、朝礼等でも話があり、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告等で学ぶ機会はある。個々の必要性については、相談員などと話しをし、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結、解約時は、十分な説明を行った上で、利用者、家族の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、利用者、家族が意見・要望を言える関係づくりに努めている。家族からは、面会時などに話を聞くようにしている。また、法人内に苦情箱の設置を行い、対応している。	来訪時や介護計画見直し時に、意見や要望を聞き、話し合いをしている。一家族から出された「ズボン下をはかせてほしい」との要望は、職員会で話し合い、他の利用者にも対応していくなど、ケアの向上へとつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やその都度、必要に応じて職員の意見等を聞く機会を設けている。	運営者は、資質の向上を常に目指しており、職員からの意見は直接、また、管理者を通して聞くようにしている。資格取得に向けても、積極的に支援する体制が確立されており、職員は向上心を持って働いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を受け、学ぶ機会がある。また、介護福祉士等の資格取得にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会等への参加を通して、同業者と交流する機会があり、情報交換を行い、互いに質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は、本人と面談する機会を持ち、本人の気持ちを確認し、不安の解消に努めると共に、問題点を把握し、安心したサービスが受けられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前は、入所に至るまでの経緯を良く聞き、家族の思いを理解しながら、今後の要望を良く聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を把握し、居宅支援事業所等、関係機関と連携をとり、本人、家族にとって安心できる支援をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の出来る事、興味のある事を一緒に行うなどし、共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、要望を聞き、本人と家族が共に過ごせる時間を大切に、時には本人の思いを家族に伝えたりし、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩や地域の行事等に、出来るだけ参加するようにしている。散歩時は、農作業する人たちと昔話を楽しんだりしている。また、馴染みの人や地域の人に面会をお願いしている。	隣接する施設に親や知人がいる利用者は、行事などで一緒になる時は、とても喜ばれている。遠足やドライブで出掛けた時に、故郷の家や風景も見られるよう、近くを通るなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動等を通して、利用者同士が関わりを持つ場を作り、良い関係ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでの関係を大切にして、経過を見守り、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話しをよく聞き、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や関係者で話し合い、その人らしい暮らしができるよう支援している。	日常の会話やかかわりの中から、思いの把握に努めている。また、利用者同士の会話の中からも感じ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、生活歴や生活環境などを出来るだけ話してもらったり、関係事業所に情報提供を依頼する等して、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、心身状態等をよく観察し、記録したり、申し送りを充実させ、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度、ケアプランの見直しを行い、本人、家族、職員、関係者と話し合いをし、現状に即した介護計画を作成している。月に1回、担当職員がモニタリングし、状態変化時の見直しもやっている。	担当職員の日々の記録を基に、家族を交え計画を作成しているが、利用者、家族からのニーズに沿った目標計画が漠然としていることで、計画作成担当者も評価がしにくいものとなっている。	利用者本意の計画書となるために、短期目標を取り組みやすい項目とすつながらよう、連動した計画書が作成されるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個別記録に記入し、小さな事でも職員間で情報を共有しながら、ケアのあり方や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況を常に把握し、その時々々のニーズに応えられるよう、他職種とも連携しながら支援に努めている。受診や急変時は、看護師や相談員、食事のことは栄養士と相談する等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館や理・美容室、スーパーを利用し、一人ひとりの楽しみをもった暮らしが出来るよう支援している。また、地域の小・中学生の慰問があり、楽しみの一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望もあり、全員が地元の病院をかかりつけ医としている。医師とも顔なじみで、定期的を受診している。夜間も対応してもらえ、本人、家族も安心されているようである。	ほとんどの利用者が、入居前から地元の病院を掛かりつけ医としている。相互の信頼関係も構築されており、安心した受診体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者の状態を把握し、日常的に法人内の看護師に報告、相談し、指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、サマリー等で情報交換を行っている。また、面会に行ったり、家族とも連絡を取りながら、病院とも連携し、早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後、早い段階で本人、家族と話し合い、重度化した場合や終末期に向けた方針を共有し、地域の医療機関や法人内の関係職員と連携し、支援している。	入居時に、その時の状況に応じた住み分けがあることを説明している。状態変化に伴い、そのつど話し合いを行い、関係者との連携した方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、対応できるよう勉強会も行っている。法人内には、AEDが備え付けられており、研修会も行われている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、色々な災害を想定して、防災訓練を行っている。防災無線の設置や役場等との協力体制を築いている。災害時に備えて、法人内で食料等の準備態勢ができています。	年2回、法人合同での防災訓練をしているが、ホーム独自の年間計画を立て、毎月さまざまな訓練を行っている。今後、地域からも参加協力をしてもらえるよう、発信方法を検討していく取組がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合わせた声かけやケアを行っている。	職員は、利用者一人ひとりの生活歴を把握することで、性格や癖も含め、人格を尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、本人の思いや希望を言いやすい関係づくりに努め、出来るだけ自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状況を見ながら、本人のペースに合わせたケアを行い、出来るだけ、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や顔そり等、希望に沿って支援している。時には、家族に相談しながら、新しい衣類等も購入している。散髪は、地域の理・美容店へ出向くこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況により、できる事が限られてきているが、野菜作りや収穫を一緒に行い、食事にとり入れる事で、喜びや楽しみにつながっている。	プランターで育てた野菜を献立に取り入れるなど、季節を感じる工夫がある。職員と一緒にできることは少なくなっているが、食事の形態や彩りで、食べることの楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、バランスの良い食事の提供を行っている。水分摂取や食形態等も、個々に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じて、歯磨きの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、一人ひとりのパターン等をつかみ、誘導することで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排せつチェック表を活用し、声かけやトイレ誘導を行っている。昼間はおむつの使用はなく、紙パンツ、パット、布パンツなど、状態に応じて使い分けを行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便ができるよう、体操や適度な運動、水分補給を行っている。また、かかりつけの医師にも相談し、指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日、入浴日になっており、個々の体調に合わせてたり、外出予定や病院受診予定等を考慮しながら支援している。	一日おきの入浴となっているが、本人の希望や病院受診に合わせた支援もしている。また、しょうぶ湯やゆず湯など、季節に合わせた変化のある風呂は、利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の状態に合わせて休息をとったり、日中の活動を充実させ、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬明細表を作成しており、いつでも個々の服薬状況が確認できるようにしている。内服の変更時は、連絡ノートや申し送りを活用し、情報を共有している。服薬時は、間違いのないよう、二重確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている力を活かして、役割や楽しみ、気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、なるべく戸外へ出るようにしている。また、図書館やドライブ、理容店へも出かけ、地域の人にも協力を得ながら、外出支援を行っている。	1年間の目標達成計画として取り組み、利用者全員を対象にしていた外出支援を、個別支援に切り替えている。それにより、家族や地域の人々の協力も得ながら、一人ひとりの希望に沿った支援ができるようになってきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりがお金を所持することは、混乱やトラブルにつながることもある為、普段は預かりをしている。状況によっては、本人に所持してもらうこともある。預かり金は、出納帳で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や要望に沿うように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも気持ち良く過ごせるように、清潔を保ち、季節の花を飾ったり、ソファを外の景色が見えるように配置したりして、季節感を味わえるように工夫している。	居室から出たところが広間となり、食卓とくつろぐための場所の区別がしっかりわかるような配置となっており、食後はソファや畳に座るなど、思い思いに過ごしている。大きな花器に色づいた柿や木の実など、季節を感じる植物が生けられ、話題作りの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話したり、共に過ごせるよう、ソファや食事の席を近くにす等している。また、ソファの配置を工夫し、一人になれる空間も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力してもらい、使い慣れた家具や家族の写真を飾る等して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ベッドやたんすの場所も個々に合わせた配置となっている。家族の写真や思い出の品々も壁に飾ったり、さりげなく置いてあったりと、本人が混乱なく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等、わかりやすいようにネームプレートをはったり、目印をして、安全で自立した生活が送れるようにしている。		